

株式会社エイエムアイ・テクノ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-5-3-1313
tel 03-5339-7417 E-mail ami-tec@m2.pbc.ne.jp

1、電源を入れる / オートゼロ機能(本体に中継チューブを接続した状態)



背面を下に上向きも可能

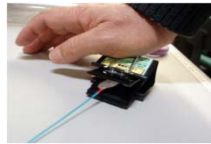
POWERボタンを押す…表示値0.0±1.0を確認後、次へ
(電源投入で値がゼロ/…エアパックを接続してなくてゼロにならない時は、電源を再投入)

<取扱注意>

- *エアパックを滅菌する場合はガス滅菌
- *チューブ内に水など液体を入れない

2、カバーテープの圧迫を測定しながら、エアパック取付

作強圧
はい
迫場
不要
合が
では
2、0
こ
以
の
上
操
の



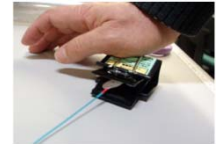
エアパックをプレス試験機でプレス



中継チューブとエアパックを接続、
しっかり奥まで挿し込む
(低い値を表示)



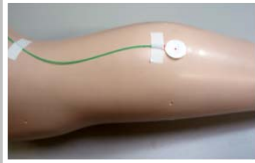
コックの軸が赤まで引き、
値が0±1でコックを放す



プレス試験機より
エアパック外す

3、部位にエアパック(センサ)取付

皮膚面をアルコールなどで油分をふき取ると、はがれ難い



カバーテープの
台紙をはがす



強い圧迫や摩擦が考えら
れる場合は、配線の全面
をテープで止める



エアパックを切り離す

部位にエアパックのチューブ付け根をテープで留める
チューブ方向はストッキングの着用向きを考え決める

両手で持ち、中心を合わせ足の軸方向から貼り着け、
圧迫を極力掛けないように貼る(値で10以内)

周囲をしっかり
押さえる

4、ストッキング・包帯を装着



着用時のねじれや引き上げ方の違いが、測定値に左右します。
測定ポイントにマークや線を入れるなど工夫し再現性を高めると共に、

5、エアパックと中継チューブを接続…接続前、ゼロにならない時、電源再投入
エアパックのエアが完全に抜けた状態で接続、無圧や弱い圧では手のひらでエアを押し出す



接続は奥までしっかり挿し込む、(若干の値が出ます)

6、エアを入れる→コックを引き(軸が赤まで)0±1表示し、2秒後に放す



コックが止まるまで引き、(軸が赤まで)
値が0又は±1になった時点でコックを放す
<コックを引くのは1回>
やり直す場合は、エアパックを一旦切り離し、
エアパックの袋全面を手で押さえ、
エアを全部抜いて、
5、接続からやり直す
*エアが全部抜けてないと高い値となる

7、値が安定したところで読み取る → エアパック切り離し



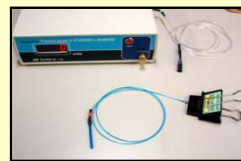
姿勢変化・機能・用具の材料特
性などによって、数値が安定す
る時間が異なります

*この状態で、何時間も連続測
定はできませんが、一旦切り離
し、再接続し測定することで値で
変化を観ることができます

< プレス試験 >

最大測定値・エアパックのエア漏れ・エア量のバラツキ

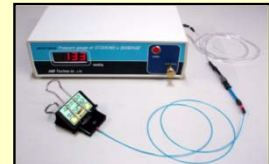
1、エアパックの袋部全面をプレス試験機で挟む



2、エアパックと中継チューブを接続



3、エアを入れ(コックを赤まで引き、0値で放す)



値は測定できる最大値。したがって、これ以上の圧力であっても値は上がりません。

・エアパックの値が急激に下がる→エア漏れ(破損)

*プレス試験機に長い時間挟んだままでは値が徐々に下がります

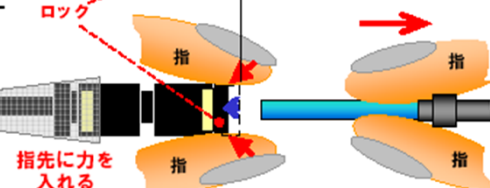
チューブの接続と処置

<接続>

止まるまで差し込む



<切離し>

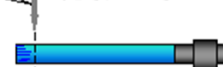


両指先に力を入れ(つまみ)引き離すとロックが外れチューブが抜ける

<ジョイント部の磨耗や傷の処置>

カッター

先端5mm位をカッターで垂直に切り落とす



多点測定: 多点測定は、エアパック切り離した後、

5、6、7の操作を繰り返す

時間変化: 時間経過後の変化は、一旦エアパックを切り離し、

5、6、7の操作を行う